

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	山口県	市町村名	長門市	大学名	
派遣日時	令和7年7月28日(月曜日) 9:30~11:30 ※本報告書とは別に、派遣当日の次第、研修実施要項・日程表等、日程の詳細(休憩時間も明記)が分かる資料を添付してください。				
実施方法	派遣 / <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔 ※いずれかに○をつけてください。				
派遣場所	長門市三隅地域交流プラザ(ハイブリッド)				
アドバイザー氏名	広島大学大学院 人間社会科学研究科 准教授 南浦 涼介				
相談者(受講者)	長門市立浅田小(10名)、長門市立仙崎小(2名) 萩市立明倫小(1名)、萩市立川上小学校(2名)、美祢市立大嶺中学校(2名)、山口県教育庁義務教育課(1名)、下関市教委(1名)、長門市教委(3名)				
相談内容等	① 外国籍の児童が在籍する学級での授業時間に離席・教室離脱をすること ② 日本語の理解が不十分な児童生徒にとって参加意欲がもてる授業づくりについて全教職員での共通理解を図ること				
派遣者からの指導助言内容	<p>① 外国籍児童生徒に対して「～ができない」(欠損的思考)と考えがちである。外国籍児童生徒に対して「～ができる」「伸びしろがある」(資本的思考)と考える。その子の強み、得意を生かす。この考え方が、児童生徒が安心して学べる第一歩となる。</p> <p>② 全教職員で共通理解を図るために、学校全体のカリキュラムで捉える。 4つのアプローチ</p> <p>■「日本語アプローチ」: 視覚化・操作化・体験化・文脈化・やさしい日本語を用いながら日本語の力を伸ばしていく。基礎から積み上げていくのではない。多様な学習・指導の場をランダムに設定し「考える」「ことばを出したくなる」場にしていく。</p> <p>■「多言語・多文化アプローチ」: 複数の言語を積極的に使う経験をすることで認知を伸ばしていく、複数の言葉と文化に根差したアイデンティティを大切にする。通常の授業でも児童生徒の発言の中の見方・考え方を丁寧に読み取り、自分なりの言葉で表現できるようにしていく。そんな授業と似ている。</p> <p>■「学校全体アプローチ」: 行事、特別活動、学校システムの中に組み込む、子どもが活躍できる場をつくり、学校全体の「多様性を認める力」を作る。つながりを形成することで、マイノリティの価値が認められ、共有される。そうすることで全体の価値観が変わっていく。</p> <p>■「学校外連携アプローチ」: 外部のNPOやボランティアと提携し、学校だけではなしえない「共生の力」を地域全体で育てていく。</p> <p>組織的な体制も大切だが、それをつくるのは時間がかかる。まずは、目的を共有し、取組の方向を共有し、できる人から、上記のアプローチの中の、できることを行い、児童生徒にとって少しでも居心地のよい場所をつくっていく。(ノット・ワーキング【結び目づくり】)できないことに対して不安はあるが、灯がもてれば児童生徒も教職員も保護者も、気持ちが明るくなる。</p>				

(様式3)

相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<ul style="list-style-type: none"><li>・今後、外国人児童生徒の在籍は増加傾向になると考える。これまで外国人児童生徒の「できないこと」に対する支援ばかりを考えてきた。この支援は継続が必要と考えるが、各学校での指導については、個に応じた指導や、個別最適な学び、特別支援教育等と基本的な考えを同じくして臨むよう指導していく。</li><li>・現在、本市の学校では学級内に1～2名の外国人児童生徒の在籍で、個別指導の時間や一斉授業での支援員の配置が限られており、児童生徒が安心して生活できる学校にできるだけ早期にしていくことが課題になっている。今後、支援員の配置の拡充も検討していくが、外国人児童生徒が安心して学ぶことができる「学校のカリキュラム」や「授業の在り方」についても、すべての児童生徒が安心して学べるものにしていくための切り口の一つとして位置づけ、研修を深めていけるよう市教委としての取組を考えていく。</li></ul>
--------------------	--

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。